

軽井沢風越学園の「かぜの一とをよみあう会」参加レポート

N.T (2023年12月、2024年1月に参加)

かぜの一とをよみあう会から持ち帰ったもの

2023年12月と2024年1月に開催されたかぜの一とをよみあう会の1回目と2回目に参加しました。今回体験して感じたことをここに書かせていただきます。

ある日、

風越学園から「かぜの一とをよみあう会 参加者募集」という1通のメールが届きました。

風越学園の取り組みに以前から興味を持っていたこと、オンラインでの開催で参加しやすいということから、思い切って応募することにしました。

異なる背景や視点を持った方たちとの語り合い

どんな方が参加されるのだろうか。どんな読み合いになるのだろうか。

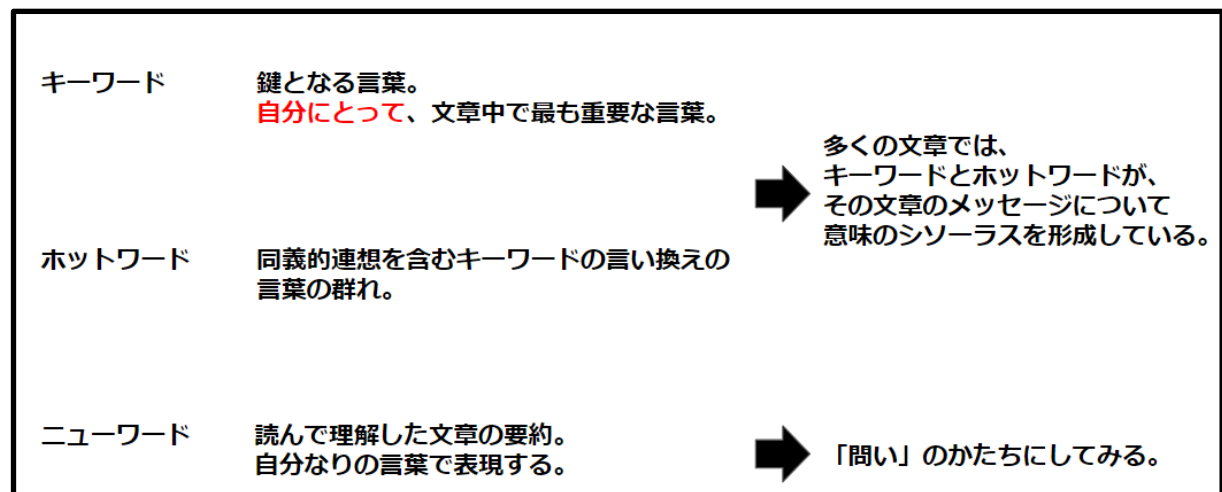
わくわくした気持ちと少しの不安が入り混じった中で、参加した1回目。

参加者は、中学校の先生、小学校の先生、幼稚園教諭(私)の3名でした。

そわそわした気持ちのまま、初めて出会った皆さんの前で自己紹介。

チェックインが終わると、さっそく読み合いがスタートしました。

1回目は「[チームで子どもの学びを支えるために必要な仕組みは何か](#)」(7・8年スタッフ)という記事を元に、それぞれが「キーワード」「ホットワード」「ニューワード」を考え、自分が感じたことを語りあっていきました。



それぞれの実践を振り返りながら、自分が大事にしていること、悩みなどを少しずつ言葉にしていく時間。自分の思いを語り合うことで大小問わず新たな問いが生まれる場になっていきました。

語り合う中でこのような3つの問いが生まれました。

1) 「学びを支える」というのは、どういうことなのか？

2) どういう仕組みがあると、それをチームで行えるのか？

3) そもそも、人が人に関わる、働きかけるというのは、何をする事なのか、何をしない事なのか。

「学びを支えるとは、自分たちで学びを進める力を育てるということ？」

「自分で学びを進めるために必要なことは？」

- ・自分事化することが大切なのは
- ・言葉に出来ないものを言葉にして共有することが大切かも

「複数の大人がいるとどう変わってくる？」

- ・（こどもが）色々な人に伝えることができる
- ・主観と客観で自分の実践やこどもの学びをみることができるのでは

「大人はどんな関わりが必要なのか？」

- ・何もしない関わり（見守ること）も、こどもの学びが進むことになるのでは
- ・そもそも人が人に関わるとはどういうことなのか

異なる視点をもつ方たちとの語り合い。

多様な視点が集まることで、新たな問いや学びが生まれる一方、異なる背景や視点を持つ方達と語り合うことの難しさを感じた1回目の読み合いでした。

初参加から1ヶ月後、2回目のかぜのーとをよみあう会に参加。

1回目と同じメンバーということもあり、少し安心した気持ちの中、参加することができました。

2回目の会では、ふうさんの『[子どもと保護者とスタッフと](#)』、もいさんの『[「やってみる」のその先に・・・](#)』という記事を読み合いました。

『「やってみる」のその先に・・・』

「やってみる」のはじまりはどんな場所？

そんな問いをもちながら、語り合いに参加しました。

▼語り合いででてきたそれぞれの考え

- ・大人が”やってみる”の機会を作ることから始まるのでは
- ・こどもの興味・関心からスタートとするのでは。心が動くとき、自分の中から”やってみる”は生まれるのではないか
- ・自分だけで生まれるものなのだろうか？

それぞれが自分の考えを伝え合っていると、風越学園の本城さん（しんさん）から「この記事では大人の”やってみる”とこどもの”やってみる”が重なっているんじゃないかな」という言葉が。

自分の中で新たな気付きになる言葉でした。

自分と誰かの”やってみる”が重なることで新たな”やってみる”が生まれ続けるのかも。自分の経験を振り返っても、そういう経験が多かったかもしれないと考えるきっかけになる言葉でした。

自分がいる場所では、いまどんな”やってみる”が生まれているだろう。

そんなことを心の中で振り返っていると、1人の参加者から「自分のいる学校では”やってみる”がない子が多い。どうしたら学校で”やってみる”が生まれるのだろう」という悩みの共有がありました。

やってみる環境って何だろう。

大切にしていることを振り返り、言葉にして伝えてみることにしました。

自分のいまの考えは以下の3つ。

- ・固定概念にとらわれないこと
- ・「ヒト、モノ、コト」など様々な環境を通じた出会いがあること
- ・余白があること

保育の現場にいる自分の考えを伝えてはみましたが

学校の先生方のお話を聞いていると、その環境を作ることの難しさや様々な葛藤があることを今回、知ることができました。

保育の世界と学校の世界。違う部分は沢山あるかもしれないけれど、大切にしたいことが何か少しでも重なっているといいなと考える機会になりました。

ちなみに

風越学園では”やってみたい”が生まれるための取り組みとして

「やってみろがやってくる」という実践を行っているそう。

「やってみろがやってくる」をやってみると、”やってみたい”が生まれる。

風越学園には、”やってみたい”や”やってみる”が生まれる場が多くあるからこそ、新たな”やってみる”が生まれ続けているのかもしれないなと感じました。

かぜノートをよみあう会での語り合い。

それぞれの実践や大事にしたいことを少しずつ言葉にしていくことで、自分が大事にしていることに改めて気付いたり新たな問いが生まれたりする場になっていきました。

新たな問いは自分の心のなかにじんわりと広がっていき、持ち帰ることで新たな学びに繋がっていきました。

様々な視点をもった方と語り合うことって面白いなあ、もっともっと語り合いたいなあ。

自分が大事にしたいことは他にどんなことがあるのだろう。

そんなことを振り返る機会になった語り合いでした。

一緒に語り合いをしてくださったみなさま、ありがとうございました。